

厚木の自由民権運動

—活躍する民権家たち—

厚木市

自由民権運動に関する資料は、『厚木市史』近代資料編(1)（以下『市史』近代資料編(1)）第二章自由民権運動（令和三年△二〇二一△三月三十一日発行）としてまとめられている。今回は、『市史』近代資料編(1)では、頁数の関係で掲載することができなかった資料を選択し、さらに自由民権運動を多様に捉え、大阪事件以降の民権家の動向なども幅広く収録することを心掛けた。こうしたことから、既刊の『市史』近代資料編(1)と併読していただくと、より自由民権運動の理解が深まると考えている。

既刊『市史』近代資料編(1)では、資料を第一節～第四節としたが、叢書では同様に年代を追って編集し、第一章～第五章としてまとめた。各章ごとに資料点数にばらつきが見られるが、以下各章ごとに概説をする。

**第一章 国会開設運動と民権結社** この章は、『市史』近代資料編(1)で同様の節名で紹介している。今回は、国会開設建言書提出をめぐる新聞記事、湘南社開業式の様子などの資料を掲載した。また明治十五年（一八八二）十一月板垣退助等の洋行関係、明治十六年一月より開講する講学会関係、自由党党資募集関係などが含まれている。なかでも湘南社開業式の様子（資料3）は、今回が初めての紹介である。湘南社開業式（明治十四年八月五日）の様子は新聞記事などでは既に紹介済みであるが、当該資料はその傍観記であり、当日の景況が理解できよう。

**第二章 地租軽減運動** 地租軽減運動関係資料は、『市史』近代資料編(1)で紹介したので参照願いたい。地租軽減運動は各地で繰り広げられている。愛甲郡での運動関係資料は既刊資料編で紹介したが、今回は租税納期改正建白書草案写を新たに紹介した（資料26）。この草案は、大住・洵綾・愛甲三郡で建白を目指していたものである。こうした動きがあったものの、この三郡での建白は実現せず、結局愛甲郡のみの建白になった。

**第三章 民権運動の変容と大阪事件** 大阪事件は明治十八年（一八八五）十一月二十三日に発覚する。神奈川県でも多くの逮捕者を出し、公訴・入獄者を見ることがになる。『市史』近代資料編(1)第二章第三節では、大阪事件解明の基礎資料を採録してあるので、まずは参照願いたい。この叢書へは、『市史』に掲載できなかった入獄者の書簡、『郵便報知新聞』による大阪事件報道、『大阪日報附録 国事犯公判傍聴筆記』を編集採録した。東京の新聞社による大阪事件報道では、紙面からは事件発生時の正確な状況把握ができず、報道内容が混乱している様子が分かる（資料52①②）。しかし次々に逮捕者の数が増え、次第に事件の全貌、全容が明らかになってくる。また『大阪日報附録 国事犯公判傍聴筆記』では、神奈川県に関する逮捕者たちの人定審問・事実審問・弁護人弁論などを採録編集した（資料54）。神奈川県愛甲郡荻野村に資金調達に来村した景山英（福田英子）に関する資料も収録した。こうした資料により、逮捕者の事件参加への動機や判決にいたる裁判経過が理解できよう。『市史』本編と併せて御利用頂きたい。

**第四章 結社再編と地域の変容** 大阪事件を経て、各郡単位で活動してきた結社は神奈川県を単位に再結成に向かう。民権運動の大きな柱の一つであった国会開設のめどがつくと、多くの民権家たちは実業界、教育者、自治体職員、町村会

議員などに活躍の場を移して行く。こうしたことから、この再結社に参加する活動家は以前の自由党に参加した多くの党員ではなく、愛甲郡では限られた人達であった。ここではこの再結成に関する資料をまとめた。

また大阪事件に関係した、難波春吉・大矢正夫・佐伯十三郎に関する事件後の資料を編集した。明治二十六年（一八九三）四月九日大阪事件神奈川グループの全員釈放を祝い大磯の角半楼で祝宴が開催されている。既に没している黒田黙耳・山川市郎の参加は叶わなかったが、この祝宴へは前記三名のほか存命している九名が出席している。

日本は明治二十七年八月一日に清国に宣戦を布告。こうした中、難波・大矢・佐伯は大陸に活路を求め、明治二十七年十一月二十一日朝鮮に向け出帆する。難波・大矢・佐伯の決断は、天野政立や石坂昌孝らに相談した上での事である。翌二十八年四月十七日、日清講和条約が調印されたが、この年の十月七日に閔妃（びんひ朝鮮国王高宗の妃）事件が発生する。難波はこの事件に関係し逮捕され、日本に召還されて広島で裁判にかけられる。こうした経過が『新潮』の報道によつてなされているので紹介した（資料76～82）。この閔妃事件の裁判では、関係者四八名全員が無罪となった。

## 第五章 民権家の日誌・履歴・伝記・その他

すでに民権家の葬儀・追悼・墓碑その他については、『市史』近代資料編

(1)の第二章第四節で紹介したので、まずは参照していただき、今回は、割愛した伝記・日誌その他をまとめた。本章には、既に翻刻されている資料も多いが民権運動を知るための基本資料となるので、今回も掲載することとした。特に天野政立の「鐵窓日誌草稿」「所世録」（資料84・85）は大阪事件を良く伝えている。また明治二十四年二月二十四日の「難波惣平家類焼見舞受納簿」（資料87）は、惣平の火災時の動向や火事見舞品の数々が分かり、当時の仕来たり（近隣付き合）を知る上でも貴重であろう。この受納簿から、民権家同志であった村上安次郎・沼田初五郎・柳田富三・森甚太郎・片野徳三・

小宮保次郎・中村得治・霜島久円・森豊吉・天野政立（以上厚木市）の名が見える。また愛甲郡以外の民権家も記されている。この受納簿から民権運動を通じての絆の強さも垣間見られ、難波惣平の幅広い人脈を知る上で貴重な資料であろう。

大阪事件に関係し逮捕収監された菊田条三郎は、万延元年（一八六〇）高座郡座間村（座間市）に生まれた。山本與七の実弟であり、明治十二年（一八七九）二月山本家から同村の菊田家へ婿養子となり、大正五年（一九一六）十月十九日五十七歳で没する。「菊田久米三郎葬儀香奠帳」（資料92）は、綴じ方に多少の異同の部分があるが、かつて紹介されたことがなかったのも、参考のため今回収録した。本帳中に大阪事件関係者の安東久次郎・長坂喜作・大矢正夫の名が見える。現在条三郎は七沢の広沢寺（厚木市）に眠る。

以上、今回の叢書の概略を紹介した。冒頭にも記したが、自由民権運動期だけでなくその後の動きに関する資料も収録した。巻末に民権運動関係略年表・解説中の人名索引・語句註索引を付した。略年表は愛甲郡を中心に隣接する大住郡・高座郡等を含めまとめた。また広く自由民権運動の動きを理解するため必要と思われる全国の動向や県下の事項も加え、民権期以降も必要に応じて収録した。

神奈川県（相州）の民権運動の研究は故大畑哲氏が長年にわたり精力的に資料収集に奔走されました。研究成果は多くの著作として出版されており、今回もその成果に負うところが大きく、改めて感謝いたします。

なお、既刊『厚木市史』近代資料編(1)、並びに本叢書刊行に際し、編集に当たられた事務局の方々に感謝申し上げます。最後に本書が今後の自由民権運動研究の一助になればと願っています。

## 凡 例

- 一 本書は、厚木市史資料叢書13『厚木の自由民権運動―活躍する民権家たち―』と題し、『厚木市史』近代資料編(1)に収録できなかった、明治十三年(一八八〇)から大正八年(一九一九)までの資料九三点を五つの章に分け収録した。
- 一 五章の構成は、次のとおりである。
  - 第一章 国会開設運動と民権結社
  - 第二章 地租軽減運動
  - 第三章 民権運動の変容と大阪事件
  - 第四章 結社再編と地域の変動
  - 第五章 民権家の日誌・履歴・伝記・その他
- 一 資料には通し番号を付し、編者が内容を表す表題、形態(縦冊・横冊・状など)、寸法(縦×横㎢)を付けた。表題の元号には( )で西暦を付した。
- 一 冊子の表紙は括弧「」で表わし、縦冊は(縦)、横冊(横)と表記し、書簡などで(状)と表記したものもある。相手への敬意を表す一文字は一字あき、平出は二字あき、台頭はそのままとした。
- 一 本文の翻刻に際しては、原則として漢字は常用漢字を用いた。ただし、固有名詞、歴史用語、資料中の語句などについてはその限りではない。また新聞記事等の原資料に付されているルビは原則省略した。
- 一 編者が付した傍註や、明らかな誤字の訂正は( )を付した。同一文書中の同一誤字は、最初の誤字を訂正することとめた。脱字と思われる箇所は「(脱カ)」と示した。
- 一 資料を読みやすくするため、読点・並列点を付した。また、資料に付されていたものはそのままにした。
- 一 資料中の地名については、該当する現在の地名を右側に( )で付した。
- 一 変体仮名は原則として平仮名とした。変体仮名助詞のニ・ホ・ハ・カ・ク・ケ・コは、原則としてニ・而・江・茂・ハ・者・与とし、本文より小さな文字を用いた場合もある。
- 一 繰返し記号は、「々」(漢字)・「々」(平仮名)・「」(片仮名)・「く」(複数文字)を用いた。
- 一 合字の方(より)・メ(しめ)・メ(して)は、そのまま残した。
- 一 虫損や破損・解読不明部分は、□・□□・□□□・「」などで、その状態を示した。推定した文字は□などの右に( )で示した。
- 一 印判は形に合わせて、㊦・㊧とし、印文が判読できるものは右側に( )で付した。文中の印は省略した。
- 一 朱書・後筆・抹消・貼紙の部分には、「」・「」を付し、その右肩等に( )でその旨を示した。
- 一 本文を省略した場合には、(前略)・(中略)・(以下略)で示した。
- 一 連名で氏名が多数にのぼるときは、適宜四段組とし、横に配列した。
- 一 資料には、必要に応じて解説を付した。また難しい語句などには註記して説明を付けた。
- 一 資料の所蔵者名・所蔵機関・出典は、資料の末尾に( )を付して記した。
- 一 表題・解説などの年代は元号によって表記し、適宜( )で西暦を付した。
- 一 参考文献の表記は、書籍・雑誌名は『』、論文名は「」を用いた。ただし、『厚木市史』近代資料編(1)は『市史』近代資料編(1)と略記した。引用文献及び参考文献は、巻末に一覧表を付した。
- 一 巻末に、愛甲郡を中心とした民権運動関係略年表・解説中の人名索引・語句註索引を付した。
- 一 編集・執筆者は内藤佳康氏である。

**第一章 国会開設運動と民権結社**

1	明治十三年六月	相州等の国会開設建言書提出を報じる新聞記事(『東京横浜毎日新聞』)	2
2	明治十三年八月	県令の国会開設運動妨害策を批判する新聞記事(『東京横浜毎日新聞』)	2
3	明治十四年八月	観湘南社開業式	3
4	明治十五年一月	厚木劇場演説会につき林村鈴木清太郎宛船子村古澤鷹太郎書簡	5
5	明治十五年七月	難波惣平宛自由党寧静館鈴木舎定通知	6
6	明治十五年八月	朝鮮の急変につき難波惣平宛自由党林包明通知	8
7	明治十五年九月	自由党総理板垣退助洋行につき難波惣平宛寧静館官部裏通知	9
8	明治十五年十月	寧静館から自由党報告書	10
9	(明治十五年)十一月	寧静館から各地状況等報告	12
10	(明治十五年)十一月	難波惣平宛中村得治自由党分担金送付状	14
11	(明治十五年)十二月	伊勢原自由忘年会欠席等に関する三橋村雄宛室田帛太郎書簡	14
12	明治十六年一(一)十二月	講学会費出納簿	15

13	(明治十六年)二月	井上篤太郎・難波惣平宛小長井崎太郎等書簡	27
14	明治十六年五月	難波惣平宛寧静館近事報告	27
15	(明治十六年)六月	総理板垣退助帰朝祝賀金送付につき井上篤太郎宛霜島久圓書簡	30
16	(明治十六年)六月	総理板垣退助帰朝祝賀会同行依頼につき難波惣平宛三橋村雄書簡	30
17	(明治十六年)七月	板垣遊船会の烟火打上げ依頼につき難波惣平宛小宮保次郎書簡	31
18	(明治十六年)十月	自由党本部負担金につき難波惣平ほか宛小宮保次郎書簡	31
19	(明治十六年)十二月	忘年会通知につき難波惣平宛三橋甫書簡	32
20	明治十六年十二月	難波惣平宛寧静館募金等報告書	32
21	(明治十七年)一月	来家日限繰合願いにつき難波惣平宛佐野太郎書簡	36
22	明治十七年一月	寄附金取りまとめにつき難波惣平宛寧静館書簡	36
23	(明治十七年)八月	送別会に関する夜学会員宛細川瀏感謝礼状	37
24	明治十七年八月	鈴木舎定遺族恵与金収入簿	38
25	明治十七年十二月	湘南協会集会開催に関する三橋村雄宛中川良知書簡	39

**第二章 地租軽減運動**

26	(明治十六年)	大住・洵綾・愛甲三郡租税納期改正建白書草案写	42
27	(明治十七年)十一月	旧自由党员等の集会や山林税延期及び義捐金送付見込に関する出京員宛柳田富二等書簡	48
28	(明治十七年)十一月	出京員難波惣平宛郡惣代諸士・旧自由党员諸君の集会等を知らせる書簡	49

29	明治十七年九月	減租関係経費領収書 (1) (18)	50
	(同十八年)二月		
30	(明治十八年二月)	元老院通達書につき天野政立宛沼田初五郎書簡	56

### 第三章 民権運動の姿容と大阪事件

31	明治十九年四月	弟天野快三開業その他につき難波惣平宛天野政立書簡	58
32	明治十九年六月	弁護人選定につき難波春吉宛林副重書簡	58
33	明治十九年六月	単衣依頼その他につき難波惣平宛天野政立書簡	59
34	明治十九年六月	難波惣平宛在監の難波春吉書簡	60
35	明治十九年六月	難波惣平宛在監の難波春吉書簡	61
36	明治十九年六月	内乱外患強盗傷人事件嫌疑による難波春吉収監状	61
37	明治十九年七月	難波惣平宛在監の佐伯十三郎書簡	62
38	明治十九年七月	難波惣平宛在監の天野政立書簡	63
39	明治十九年十月	難波惣平宛在監の難波春吉書簡	64
40	明治十九年十一月	大阪郵便局宛厚木郵便局為替領収証	64
41	明治十九年十一月	難波惣平宛贈与金北村左吉ほか領収証	65
42	(明治十九年)十一月	難波惣平宛北邨左吉在監春吉差入通知	66
43	(明治十九年)十月	正住寺上知下戻及び天野政立との面晤を伝える難波惣平宛山田元次郎書簡	66
44	明治二十年一月	事件の様様を兄に伝言依頼する黒田黙耳宛難波春吉書簡	67

45	明治二十年四月	大阪国事犯事件公訴状	68
46	明治二十年七月	妻子の状況報告を願う天野八重宛在監人大矢正夫書簡	92
47	明治二十年七月	不用衣類取下げを願う天野八重宛天野政立書簡	93
48	明治二十年七月	物品取下げを願う天野八重宛難波春吉書簡	94
49	(明治二十年)十月	難波惣平宛山川市郎書簡	94
50	明治二十三年一月	難波惣平宛難波春吉書簡	95
51	明治二十三年三月	難波惣平宛難波春吉書簡	97
52	明治十八年十一月	『郵便報知新聞』掲載の大阪事件被告人等新聞記事(抄録) ① (44)	99
	同二十一年二月		
53	明治十八年十二月	警察調査・予審調査等史料(抄録) (1) (3)	130
	同十九年十二月		
	(1) 明治十八年十一月	景山英大阪事件警察尋問及び予審調査(抄録)	130
	同十九年六月		
	(2) 明治十九年四月	村野常右衛門予審調査	150
	(3) 明治十九年四		
	十二月	水島保太郎予審調査及び水島保太郎・森久保作蔵・土方房五郎言渡書	157
54	明治二十年五	『大阪日報附録 国事犯公判傍聴筆記』(抄録) (1) (14)	169
	(1) 明治二十年五月		
	(2) 明治二十年五月	国事犯公判傍聴筆記	169
		人定尋問(景山ほか)	175

#### 第四章 結社再編と地域の変動

	(3) 明治二十年五月	檄文(山本憲起草)……………	179
	(4) 明治二十年五月	事実審問(景山)……………	180
	(5) 明治二十年六月	事実審問(大阪事件第五組 大矢・長阪・菊田・山本・村野・天野・佐伯・難波・山川・窪田)	190
	(6) 明治二十年六月	事実審問(霜島)……………	214
	(7) 明治二十年七月	補遺審問(佐伯・難波・山川)……………	216
	(8) 明治二十年七月	補遺審問(大矢ほか)……………	217
	(9) 明治二十年八月	弁護人弁論(神奈川第五組)……………	221
	(10) 明治二十年八月	弁護人弁論(霜島)……………	249
	(11) 明治二十年八月	検察官論告(村野・天野ほか)……………	256
	(12) 明治二十年八月	弁護人弁論(神奈川組)……………	260
	(13) 明治二十年八月	検察官論告(天野ほか)……………	266
	(14) 明治二十年八月	弁護人弁論(神奈川組)……………	268
55	明治十七年十一月	「神奈川県苦楽府規約」……………	274
56	(明治十七年十一月以降)	神奈川県倶楽府会員名簿……………	274
57	(明治十七年)十二月	難波惣平宛小林幸二郎書簡……………	277
58	(明治十九年)六月	病氣見舞いや三郡共立英字校設立に関する三橋村雄宛宮田寅治書簡……………	277
59	明治二十年二月	武相倶楽部会出席名簿……………	279
60	明治二十年十一月	神奈川県下五郡有志者立憲政体樹立及び条約改正建白書……………	281
61	明治二十年十二月	建白取りまとめにつき難波惣平宛峰尾文太郎書簡……………	287
62	明治二十一年一月	秘密集会事件に関する始末書及び尋問調書……………	288
63	明治二十一年一月	県会騒動を報じる新聞記事(『毎日新聞』)……………	313
64	明治二十一年一月	県会議員半数改選に伴う秘密集会事件裁判に関する経過……………	313
65	明治二十一年三月	県会騒動の公判を報じる新聞記事(『毎日新聞』)……………	320
66	明治二十一年二～三月	県会騒動の公判を報じる新聞記事(『東雲新聞』)①④……………	321
67	明治二十二年四月	高座・愛甲両郡有志による憲法研究会開催を報じる新聞記事(『毎日新聞』)……………	323
68	明治二十二年七月	大隈重信の条約改正反対の建言……………	323
69	明治二十二年九月	会主山田嘉毅政談演説会届……………	327
70	明治二十二年十月	会主山田嘉毅政談演説会演題追加届……………	332
71	明治二十三年三～四月	衆議院議員総選挙準備日誌……………	335
72	明治二十三年十月	法律研究会員名簿……………	337
73	明治二十六年三月	警察官の選挙干渉に関する愛甲郡民の陳情書及び却下返戻書……………	338
74	明治二十六年十二月	難波春吉宛山本與七書簡……………	341
75	(明治二十七年十月)	佐伯等日清戦争の軍中役務者採用嘆願書……………	342
76	明治二十七年十二月	在仁川難波春吉書簡を紹介する『新潮』掲載の記事……………	344

第五章 民権家の日誌・履歴・伝記・その他

77	明治二十八年五月	金子角之助宛『新潮』掲載の在韓大矢正夫書簡……………	346
78	明治二十八年十月	『新潮』掲載の佐伯十三郎氏死亡記事……………	349
79	明治二十八年十一月	中村楯雄・難波春吉の退韓を報じた『新潮』掲載記事……………	349
80	明治二十八年十二月	亀井佐一宛『新潮』掲載の難波春吉書簡……………	350
81	明治二十九年二月	『新潮』掲載の難波春吉と金子角之助の消息……………	351
82	明治二十九年六月	難波春吉宛『新潮』掲載の朝鮮動静に関する大矢正夫書簡……………	351
83	明治七年四月	黒田黙耳官員履歴(抄録)……………	354
	同十七年十二月		
84	明治十七年	天野政立「鐵窓日誌草稿」……………	355
	同二十年九月		
85	明治四十一年十月	天野政立「所世録」……………	387
86	明治二十年十二月	「大矢正夫君伝」……………	410
87	明治二十四年二月	難波惣平家類焼見舞受納簿……………	414
88	明治二十七年八月	生糸光沢改良に関する難波春吉・佐伯十三郎広告……………	424
89	明治二十九年五月	相王鉄道敷設につき發起人総代山本與七の村会決議請求願……………	425
90	明治三十年四月	山本與七の厚木鮮雲閣設立起業目論見書及び仮定款……………	426
	(1) (明治三十年四月)	起業目論見書……………	426

	(2) 明治三十年四月	厚木鮮雲閣設立仮定款……………	431
91	明治三十年三月	荻野村村長森甚太郎履歴書……………	440
92	大正五年十月	菊田久米三郎葬儀香奠帳……………	442
93	大正八年十一月	民権主唱者飯塚金平・山川市郎の墓前祭執行を報じる新聞記事(『横浜貿易新報』)……………	460

参考文献……………

愛甲郡を中心とした民権運動関係略年表……………	464
『市史』近代資料編(1)・市史資料叢書13 解説中の人名索引……………	734
語句註索引……………	475